

# 文学館だより

令和 7年 1月 1日  
若山 牧水記念文学館  
TEL 0982 - 68 - 9511  
文 貴 日 高 第105号

あけましておめでとうございます  
昨年も、第74回牧水祭をはじめ多くの方々に牧水のふるさと  
日向市東郷町坪谷にお越しいただき、ありがとうございました。  
今年も全国へ牧水先生の魅力を発信してまいります。  
よろしく願いいたします。



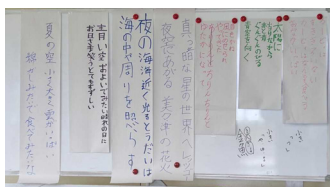
## 3月までの企画展

ㄐㄐㄐㄐ♡ ㄐㄐㄐㄐ♡ ㄐㄐㄐㄐ♡

企 画	内 容	期 間
牧水遺墨展示	収蔵する牧水遺墨から当館初公開および展示機会の少なかった遺墨を展示	1/7~ 3/30
高森文夫直筆原稿展示	未刊直筆原稿集「嬌羞の歌」詩51篇を順次展示	継続中
榎倉香邨遺作展3	牧水短歌を書くことをライフワークとした故榎倉香邨氏を偲び、同氏から寄贈された牧水短歌の書を展示	1/7~ 1/25
第29回若山牧水賞	受賞者大辻隆弘氏・高山邦男氏紹介 歴代受賞者歌集・直筆自選5首・直筆色紙展示 ※1/31来訪	1/28~ 2/25
牧水母校作品展	坪谷小学校全校児童、延岡高等学校生徒、早稲田大学短歌会学生が詠んだ短歌と牧水が学生時代に詠んだ短歌を展示	2/1~

昨年は日向市内の小学校2校に出向き、牧水先生の授業を行いました。一昨年は公民館教室での短歌づくり、中学校では6年生と中学1年生の牧水かるた交流に出かけました。牧水先生のうたを知るもよし、牧水かるた体験もよし、70基あるという日向市内の牧水歌碑を探すもよし、短歌を詠むもよし、私たち日向の大先輩若山牧水に興味をもってもらえたらという思いで話をしています。今年も、学校、職場に出向きます。どうぞ声をかけてください。

今年も、学校、職場に出向きます。どうぞ声をかけてください。



挑戦  
短歌づくり  
に



交流  
牧水  
かるた



初挑戦  
牧水  
かるた

## 久永草太さん 第1歌集「命の部首」刊行



そりゃそうさ口が命の部首だから食べてゆく他ないんだ今日も  
ヤモリとは家守だという長居してくれるら今晚台風が来る  
鳥を診る医者になりたし我を背に乗せくれるほどの巨鳥の医者に  
古い先がないからちようどいいと言い祖母が乗りくる我が試運転  
「ふと思立って」の欄が欲しかった問診票の来院理由

歌人で獣医師の久永草太さん。宮崎市出身、宮崎市在住。第6回牧水・短歌甲子園出場の経験をもつ。現在は、牧水・短歌甲子園 OBOG 会「みなと」に所属し、牧水・短歌甲子園開催両日にはフィールドアナウンサーとして大会運営に携わっている。

昨年、久永さんは第一歌集『命の部首』を刊行した。早くも重版の運びのようだ。

手に取って読んでほしい1冊である。  
文学館でも閲覧できる。



青の國若山牧水短歌大会も時を重ね第14回を迎え、今年には4,731首もの短歌が牧水のふるさと日向市に寄せられました。選者でいらっしゃる歌人大口玲子（おおぐちりょうこ）先生は、表彰式に出席している受賞者お一人お一人へ講評されました。



伊藤一彦先生は、牧水に触れつつ、印象深かった若い世代の短歌にも触れ講評されました。最後は「歌い続けること、休んでもいい、やめないこと」を強調して結びとされました。



また、今大会は日本ハムマーケティング株式会社宮崎サテライト様から協賛いただき、各部門優良賞以上の受賞者に日本ハム賞品が贈られました。日本ハムマーケティング株式会社宮崎サテライト様ありがとうございました。

## 牧水を詠んだ入賞作品

- 【一般の部自由題 最優秀賞】 宮崎県延岡市 片伯部りつこ様  
字は体たいを表すとおぼ思ふ牧水はまるくやはらか満月のやう
- 【一般の部自由題 佳作】 埼玉県白岡市 中村 和江様  
牧水の歌碑めがの回りの草むしる長多喜やど旅館あるじの主人の生直なもてなし
- 【小学生の部 優良賞】 日向市立日知屋東小学校 6年 松野 咲菜さん  
雨の中水にぬれた東ごうで水を愛した牧水思おもう

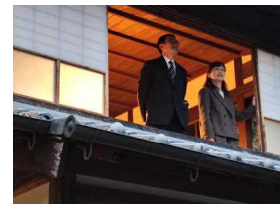


大賞と各部門優良賞以上に贈られた楯  
左側には、受賞作品を印字しています



各部門佳作入賞者に贈られた賞状  
楯同様、受賞作品を印字しています

表彰式終了後、  
大賞受賞佐々木泰三さんと  
題詠優良賞受賞平尾潤子さんが  
牧水生誕地坪谷にお立ち寄り  
くださいました。



## 牧水先生の一首

折に触れて出会う一首を紹介しています

寒の水に身はこほれども浴び浴ぶるひびきにこたへ力湧き来る  
かのみずに みはこおれども あびあぶる ひびきにこたえ ちからわききたる

大正11年「みなかみ紀行」の旅から戻った牧水は、寒中冷水浴をし、節酒をして健康に注意するようになった。寒の水を浴びて身は凍るけれども、清らかに澄んだ水の響きに応えるように体の中から力が湧いてくると詠んでいる。

状況は違えど、新年を迎え「力湧き来る」何かがそれぞれにあることだろう。新しいことを始めるもよし、継続するもよし。新年を迎え、今一度声に出して読んでみてはもらえないか。